

# ミネソタ通信

Vol. 2

1991年7月20日

編集責任者 太田口 和久・和田 一彦

## □ 就任御挨拶

ミネソタ会々長 沖田 哲也

私はこのたび、日本ミネソタ会の会長に就任致しました。ここに御挨拶を申し上げ微力ではありますが会員の皆様のお支えにより会を発展させたいと考えております。

この会は、ミネソタ大学、同州立大学、マカレスト大学及び世界で有数なミネソタ大学関係諸病院、リーディング・カンパニーに在学、在勤していらした方々に全員御加入願って、会をもち上げて載きたいと考え、1986年統合、発足した会であります。初代の会長は中村正吉氏、次に高藤昇氏が就任されておりました。会員には戦前にミネアポリス・セントポールに在任留学なさった方を初め、昨秋帰国なさった方々まで多士済々、パーティーなどでお話を伺うと、この半世紀のミネソタ史が一気に伺える様なことになっています。

ミネソタで思い出されるのは、かの地は全米の大都市のなかで最も治安の良い安定度の高いところであり、バレエ、シンフォニーオーケストラが愛好され教養の最も高い人々が住んでいるところであり、所得が多く税金が最も高いところでもあります。冬の気温が最も低い都市でもあります。だいたいの話になりますが安住の地ミネソタを離れて、仕事として社会福祉の調査研究に、ニューヨークのサウスブロンクスに行きました時には、ミネソタとは全く逆の都市地域で、人生がなにかしら真さかさまに下落し始めた様な感じがいたしました。それだけの差を体験し、ミネソタの伝統的な「アメリカ人の善良さ」を痛感いたしましたものです。もっともミネアポリスのダウンタウン、ヘネピン通りの映画館の筋向い200メートルばかりの僅かな地

帯がどうも危険な不健全な街のようで歩くのが苦手でした。私の専攻が都市政策なので、この地が再開発をすぐにもすべき処、などと商売気を出して考えたものでした。今、私の講義を聞いた学生2人が州立大とマカレスト大に留学しています。センチメンタリズムだけではなく実利的にミネソタに憧れをもっております。

## □ 役員紹介

昨年の総会后決定致しました新役員並びに担当内容をご紹介します。(敬称省略)

会 長: 沖 田 哲 也

副 会 長: 梅 津 祐 良 (渉外)

〃 : 牧 田 真 佐 美 (会計)

〃 : 尾 形 朝 子 (書記)

幹 事: 鈴 木 利 大 (渉外)

〃 : 前 川 晃 子 (書記)

〃 : 亀 山 美 津 子 (書記)

〃 : 太 田 口 和 久 (ミネソタ通信)

〃 : 和 田 一 彦 (〃)

総括アドバイザー: 遠 山 絃 司

## □ 平成3年度、日本ミネソタ会総会

平成3年4月21日(日)、東京神田の明治大学大学会館に40名の方々を集め、今年度総会が開催されました。当日はそれぞれ懐かしい話や、新会員の方々から近年の事情を混じえた報告等があり、盛況のうちに終了致しました。又当日、モービル石油人事部の梅津祐

良氏による講演、「日本とアメリカの経営組織論」が行なわれましたので要旨は簡単ですが後述してあります。またミネソタ州政府貿易局東京代表部 山下代表から最近のミネソタについてのお話があり、湾岸戦争の影響で予定されていた、ミネソタオーケストラの来日が中止となり、ミネソタ会としては公演後のパーティー等も企画しておりましたが、残念な事に今回は見送りとなりました。また、アメリカンフットボールの決勝戦、スーパーボールは来年1月にミネソタバイキングスの本拠地で行なわれるとの事です。

梅津氏講演「日本とアメリカの経営組織論」の要旨は

(1) 効果的組織の追求

- ・効果的組織とは何か（システムの組織論）
- ・組織の効果をどう高めるか（組織行動論）
- ・効果的組織をどう設計するか（組織設計）

(2) 官僚型組織（ピラミッド型）

特徴：安定的、継続的組織。命令系統と報告機能を持ち、中にいると心理的安心感がある。  
スパン・オブ・コントロール。

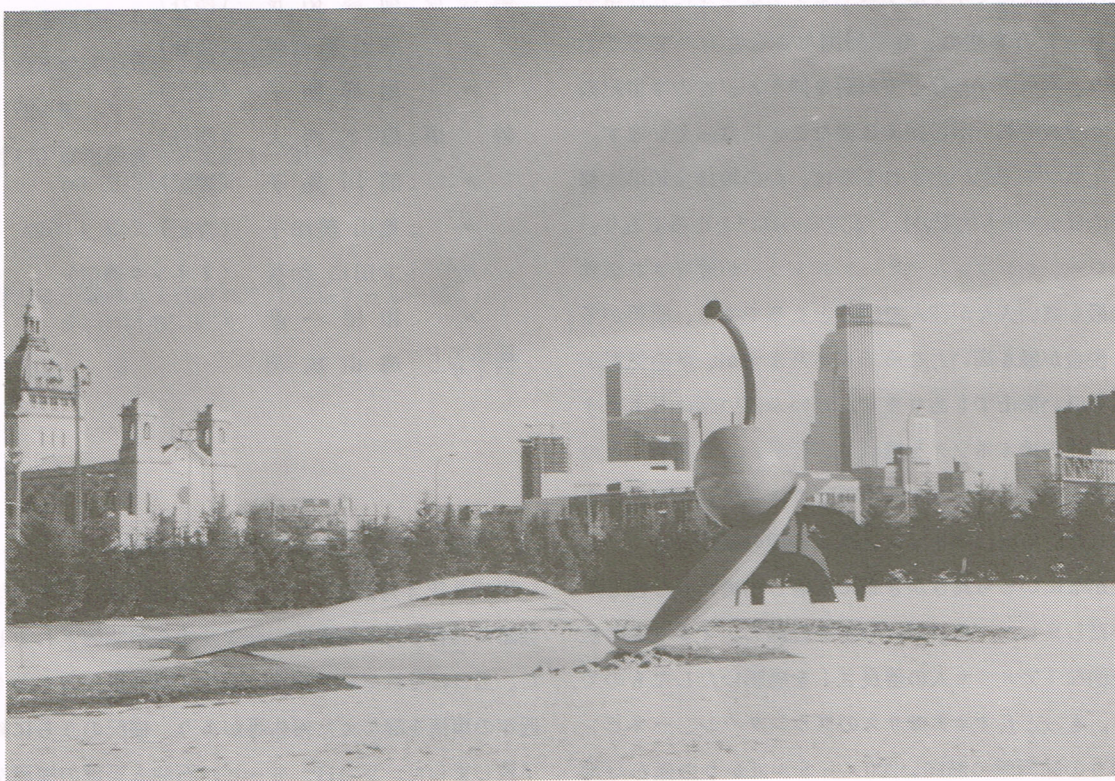
(3) 新しい組織の形

- ・マトリックス型組織（複合型）
- ・サテライト型組織（中央に情報を集める。セゾングループなど）
- ・オーケストラ型組織（ドラッガー氏が推薦）
- ・ネットワーク型組織

(4) 組織の効果性の向上

- ・情報処理
- ・職務割付け（アメリカは個人へ、日本はチームへ付ける）
- ・意志決定
- ・ヒューマン・リレーションズ（人間関係と生産性のバランス）

以上の通りでした。



## □ 「ミネソタの星」の会について

佐野 東隆

「ミネソタの星」は昭和51年6月沖田哲也・明治大学教授の肝入りで始まり、会の名前も先生の命名によるものです。主なメンバーは昭和48年夏頃から昭和50年春頃迄の間、ミネソタで出会いその後帰国してからも連絡のとれる方々です。以下にその会合の記録を紹介します。

(回数)	(年月日)	(場所)
第1回	昭和51年6月26日	六本木「国賓」(東京)
第2回	昭和59年4月29日	丸の内ホテル(東京)
第3回	昭和60年3月30日	美濃吉烏丸四条店(京都)
第4回	昭和61年11月1日	新橋亭本店(東京)
第5回	昭和63年5月3日	大阪キャッスルホテル (大阪)
第6回	平成元年11月19日	名古屋ターミナルホテル (名古屋)

近年は、御多忙な沖田先生にかわって私共で世話をさせて頂いております。転勤の先々で会場をアレンジしてお誘いしてきました。近頃、皆様方、なかなか集りにくくなっているのが悩みですが、目まぐるしい社会で生活している我々にとってミネソタの想い出はオアシスのようなものではないかと私は思っております。

## □ 「ミネソタ再訪」

大塩 知子

昨年12月24日から年末年始の休暇を利用し、ニューヨークとフロリダのオーランドを経て3年半振りに、ミネソタに行くことができました。ニューヨークでは勤務先の本社を訪ね、メトロポリタン美術館を堪能し、クリスマスデコレーションで美しい夜は本場のミュージカルを3本も続けて見してきました。オーランドはもちろんディズニーワールドです。たまたまフロリダ訪問の予定が一致したミネソタの友人夫妻が3人の子供達(男の子ばかり2、6、7才)をつれて私達のホテ

ルへ来、子供達は床に寝袋でころがり、大人4人がツインベッドを使い合計7人で寝ることになりました。子供達は大人の言う事をとても良く聞きますので、にぎやかですが決してうるさくなく大変気持ちよく過ごしました。翌日は一緒にマジックキングダム(日本で言うディズニーランド)で過ごし、私の事を「何となく覚えている」と言う上の二人の子供達を含め3年半の空白をまるで感じない楽しく懐しい1日を過ごすことができました。夏のようなフロリダで4日間過ごした後、ミネソタに飛んだのですが、ミネソタは真に氷の世界でした。ラジオでは-10°Fから0°Fと言っていました。残念ながらミネソタ滞在は1日半だけでしたのでミネアポリスのダウンタウンに買物に行っただけでしたが、夜に大学時代の友人のアパートに招かれ、他の友達も4人集まってくれ、小さな同窓会ができました。20才過ぎの彼女達が広いきれいな2LDKのアパートに優雅に暮しているのを見て、住宅事情の違いを改めて思い知らされましたが、話はずきずアッと言う間に夜が更けてしまいました。年はずっと離れていますが、留学中の2年間何かと私の面倒を見てくれた若い彼女達が各々大学を卒業し社会人として歩み出したのを見るのはとても嬉しく心から応援したいと思いました。旅行というのは名所を廻ったり、スキーや水泳・ゴルフ等レジャー中心にしたり色々目的があると思いますが、今回の私の旅行は普段FAXや電子メールでやりとりしているだけの本社の人達に直接会って話したり、職場を見る事ができ、又久しぶりにミネソタの友人達に会ったり電話で話したりすることができた、とても有意義な思い出深い旅にすることができました。

## □ 「ミネソタの思い出」

二宮 芳継(ゲンゼ株式会社)

私は米国のワシントン州公益法人International Internship Programs の試験に合格しまして、Minnesota のMinneapolis の公立学校Clara Barton Open

Schoolというところで、約9ヶ月間日本語や日本文化について教鞭をとりました。Minneapolis滞在中は4つのホストファミリーをまわりました。第1ホストファミリーは、心理学の教授のお宅でした。行った当初は英語はよくわからず、習慣や文化の違いにもかなり戸惑いました。しかし、そこはさすがに心理学の先生。私の心理状況をすぐに察して、いろいろご指導していただきました。

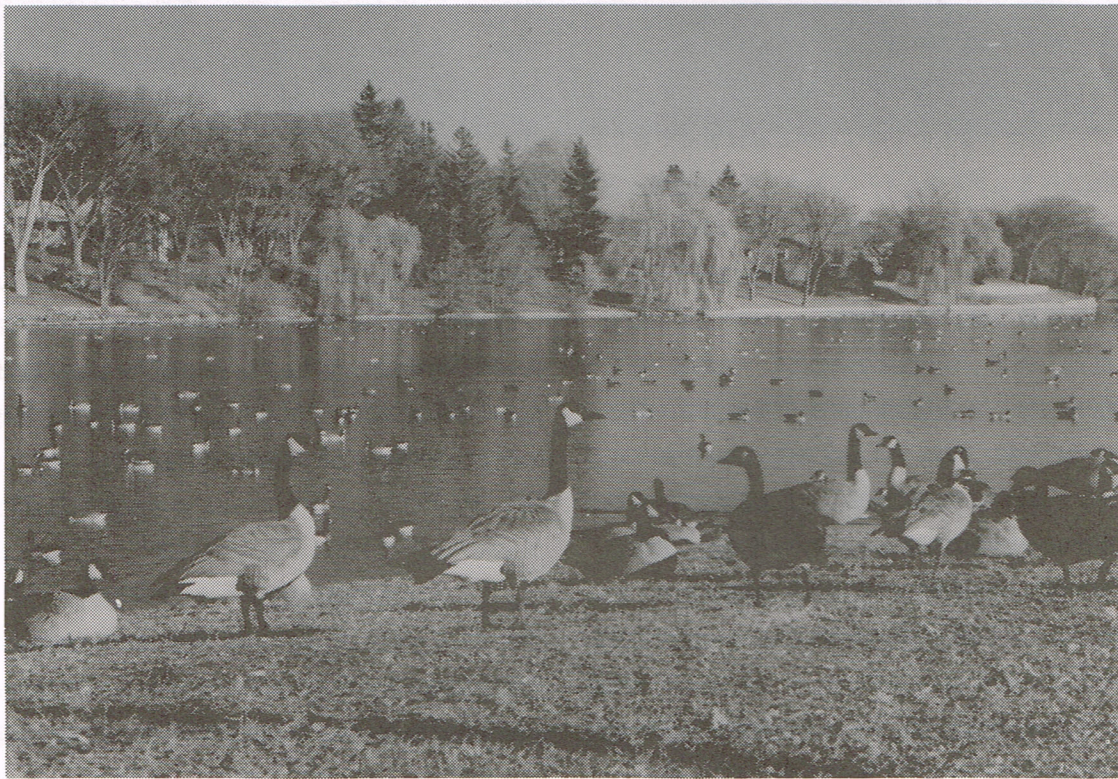
第2ホストファミリーは、法学部の教授の先生で、ユダヤの方でした。ユダヤ人は自分自身を「書物の民」というだけあって、先生はしかり、2人の子供も小学生でしたが、とにかくよく勉強していました。さすがは「タルムード」をつくりあげたユダヤ人だと思いました。私もその影響をうけて、よく勉強致しました。

第3ホストファミリーは印刷会社の社長のお宅でした。金持ちのお宅で、地下にトレーニング・ジムを持っており、私もよくそこで、体を鍛えました。ゴルフも

好きで、私もそこにいる時は、学校終了後よく一緒にゴルフに行きました。

第4ホストファミリーは、ピアノチューナーの方のお宅でした。ケニー・ロジャースのピアノチューナーをされている方で、音楽にはすごく詳しい方でした。4つのホストファミリーの方々みなさんいい人達ばかりで今すごく感謝しております。

私はホストファミリーの方々や学校の校長先生と約束でHoneymoonはミネソタに行くことになっています。その約束で日本帰国後2～3年以内に結婚するという条件があるのです。私は帰国後2年経ちますが、結婚の可能性がありません。ですから、Honeymoonではありませんが、今年の夏、一人でミネソタに行く予定にしています。ミネソタ会の女性の方で、私と一緒にHoneymoonでミネソタへ行ってくれる方を募集しております。よろしくお願い致します。



## □ 「1988 ロチェスターにて」

和田 一彦

私とミネソタの出会いにはInternship Programに応募したことがきっかけでした。このプログラムはインターンによる日本語教育、文化紹介を行うもので、仕事でも、留学でもなく、参加者が自ら創り出すボランティアプログラムでした。日本人の少ない所を希望していた為でしょうか、私にミネソタ州ロチェスターとのマッチングが決定しました。資金のほうは、2年間で貯めたわずかな預金と車を売り飛ばしてなんとか間に合わせ、会社を辞めて、スライド写真等を作り、初めての海外生活に向けて準備すること2ヶ月。春の訪れと共に夢にまで見たアメリカへと旅立ちました。

夏に東海岸へ旅行した時を除いて、殆どロチェスターに滞在しました。この町は実に医療の町にふさわしく、クリーンで安全を誇りとしていました。ロチェスターを知らないアメリカ人でも、メイヨクリニックと云えば理解してもらえる所です。消費税が7%と高く、市は世界からのビジターやIBMがあるのでかなり潤っていました。住宅は200坪の土地に中古の家で1,000万円足らずだったでしょうか。

滞在中私は素晴らしいホストファミリーに恵まれました。小学校校長をしていたDr.Nelson氏(41才)でした。(現在はWinona State Univ.助教授)とても穏やかな方で、私とは英文学や音楽などの話題が合い、気心の知れた友人の様に話ができました。彼は国際教育を研究しており、その意味で私の世界に対する目を一層開いてくれました。(ミネソタ大の教授も紹介していただきました。)平均的な所得の家庭でしたが、アフリカ等への寄付を積極的に行っていました。夫人は教師でしたが、今では、正規の看護婦をしています。聞けば、せっかく医学のチャンスに恵まれた所に来たのだから……という理由で学位を取ったのです。その積極さは如何にもアメリカ人です。

さて、東京や千葉で育った私にはロチェスターは刺激の少ない町ではありますが、ガレージセールで買った

自転車に乗っては、美しい湖などの写真を取りに出かけたりしました。町には、“さくら”というレストランがあり、日本食好きのNelson氏が時々連れていてくれました。ただ唯一の誤算は、Nelson家にはケーブルがなくTVが見れません。世の流れをつかむのに苦労しました。(’88年は中西部で日照りがあり、またブッシュ対デュカキスの大統領選挙があった年です。)一方で子供たち(男の子ふたり)には任天堂のゲームを与えており、その結果日本人の親のような悩みを体験しました。冬の寒さは皆様もご承知の通りですが、積雪の少ない年でした。滞在中に日本では天皇が病気になる、高校等では天皇制についての話の依頼を受けました。帰国したら昭和から平成になっており何だか浦島太郎の気持ちになったものです。

一年間の滞在中で、アメリカ生活そのものが私の研究材料で有り、教える以上に学ぶ事の多かった充実したミネソタ生活でありました。

## □ ミネソタ補習授業校の歩み

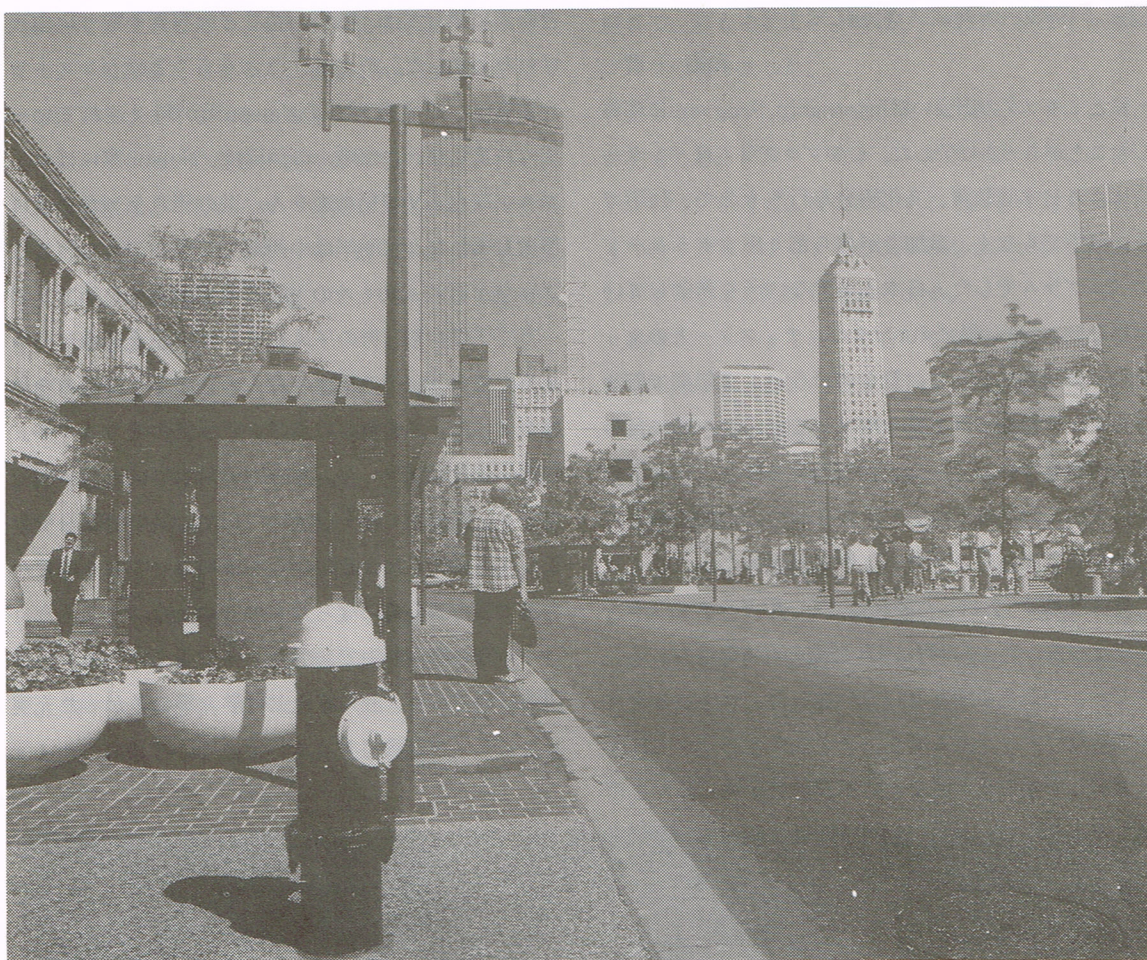
森園 典子

ミネソタの街路樹も淡い緑色のベールをかぶり、庭の鈴蘭やライラックも勢いのいい芽立ちをみせる頃となりました。

日本のミネソタ会の皆様方もお元気で御活躍なさっていらっしゃることをおよろこび申し上げます。

平成3年4月、ミネソタ補習授業校も14年目をむかえました。設立に御尽力下さいました当時のミネソタ大学日本人会の方々、その意志を引きついで運営方針について真剣に討議を重ねてきました父母、講師の皆様方のお顔を想いかべまして、それぞれの立場での御献身を思い感概無量です。

設立当時のことを簡単にふりかえってみますと、昭和52年11月にミネソタ大学日本人会(会長遠山紘司氏)を中心に補習学校設立の提案がありました。早速、留学中の先生方、企業の方々を中心に準備委員会を設立



し、よりよい学校づくりを目ざして熱心に検討し、同年3月にはミネソタ補習授業校設立の運びとなりました。

同年4月5日第一回入学式（幼稚部から中学部まで生徒数37名）が行われました。校舎を無償で提供して下さいましたセントピータース学校当局、松田卓牧師の一方ならぬ御配慮は、校舎の確保、運営にとりましてほんとうにありがたいものでした。これまでに3回ほど移転して、現在はアノカラムゼイコミュニティカレッジで授業を行っています。

平成3年4月、児童・生徒数97名（幼稚部から高等部まで）で創立以来14年目の新学年を迎えました。52世帯の家族が当校へ子供をおくっています。学校の方針は、子供達が日本へ帰国した際、スムーズに日本の

学校へ適応できるようにということです。それと同時に日本の現実に合わせて少しでもうかび上がれるようにと望んでいるのも事実です。

授業は毎週土曜日、午前9時から午後1時まで行われます。小学部・中学部は国語2時間、数学1時間、高等部は国語2時間、数学2時間で、小中学部の希望者のみ社会科を1時間受講しています。講師13名で中学部・高等部は教科別に級を担当しています。

当校のあるクーンランピッド市は日本の企業を誘致したいという希望で市の経済局が積極的に支援して下さい、アノカラムゼイコミュニティカレッジの校舎借用が実現しました。キャンパスはミネアポリス市の北西部、ゆったりと流れるミシシッピー河畔にあり、ヒューマニティズ学部の建物を借りて幼稚部から高等部ま

でそれぞれ一学年一教室それに図書室、事務室、倉庫さらに父母用の談話室にも恵まれています。

コミュニティカレッジの25周年記念レセプションに際しては父母会で日本の紹介をするコーナーをもうけ、地域の方々に喜ばれました。又、カレッジのクラスの一つとして3年前から、折紙、書道、料理教室等を父母が講師となって受け持ち好評です。父母にとりましては在外生活での思いがけない役割となりました。一時滞在ではあっても日本の市民とアメリカ中西部の市民との間で交流を持つという気運が補習校を通じて生まれはじめています。

補習学校で学んでいる子供達は、日本とは全く異質の文化圏が存在することをそれぞれの年代に応じて理解し、良い点悪い点も日常生活を通して細かに見聞しています。多様性を認めること、そして多様であることに寛容であるアメリカの風土を理解しているともいえます。父母会には、現在、両親共アメリカ人が2家族、母親のみ日本人の方が10家族加わっています。

当校の特色は、小規模校でまとまりのある雰囲気の中で学習できることです。運動会をはじめ諸行事もすべて全学年いっしょに行っています。年度末には『ミネソタっ子』という300頁位の全校生徒、父母、講師の文集が発行されます。

父母会で選ばれた運営委員と講師側からの教務による運営委員会が中心となって、学校運営の積任を持ち諸問題の解決にあたっています。限られた時間で効果のあがる学習法を工夫すること、講師の確保、日本語クラス設置の要望などの問題があります。全父母が何らかの形で学校の運営に参画するために、運営委員長の任期は一年、運営委員も最長三年までの任期を原則としています。父母の積極的な姿勢がこの学校を活力あるものにしていく大きな原因だと思えます。海外にいても次の世代をになう子供達の基礎づくりに力をつくすことができるのは、父母会の姿勢と共にアメリカ合衆国の寛容さに負うところも大であります。

日本のミネソタ会の皆様に、私達の補習授業校の現



況を御報告できますことを嬉しく思います。当校の発展を今後共暖かく見守って下さいますようお願いいたします、皆様方の御健康を遥かにお祈り申し上げます。

1991年5月

□ 編集後記

和田 一彦

ここ1年で2回の幹事会を含めて、編集会議や総会の準備を行いました。役員の殆どが教育関係者で、特に2月～4月の多忙の中では大変だったと思われませんが、原稿も色々な方々からいただき、ここに何とかミネソタ通信を発行することができました。今回は新しい会員が参加しているので、その意味ではミネソタ会が少しずつ広がりつつあることを表していると思います。

懐かしいミネソタの思い出から新しい体験談まで、なんでもけっこうです。会員の皆様の協力で次のミネソタ通信を作りましょう。

投稿希望の方は下記の所へお送り下さい。

(送り先)

〒179 東京都練馬区北町1-23-3  
tel 03-3933-9323

大田口 和久

〒276 千葉県八千代市八千代台北7-4-35  
tel 0474-85-3624

和田 一彦